



Ritsumeikan University
College of Letters

教 学 の 手 引 き

2005

人文総合科学インスティテュート
総合プログラム

文 学 部

Table of Contents

人文総合科学インスティテュート 総合プログラム

I 人文総合科学インスティテュート総合プログラム 教学紹介

① 人文総合科学インスティテュート総合プログラムとは	3
② 総合プログラムでの学び方	3
③ 研究入門の学び方	17
④ レポート・小論文の書き方	18
⑤ 参考文献	20
⑥ 卒業論文（非卒業論文形式含む）の提出について	24

II 科目一覧

人文総合科学インスティテュート総合プログラム	28
------------------------------	----

III 学修を進めるにあたって

① 文献資料室と共同研究室	33
② クラスロッカーの使用方法について	33
③ セミナーハウスの正課用利用の手引き	34
④ 学生印刷室の利用について	35
⑤ 自主ゼミ援助制度について	36
⑥ 「小集団教育推進補助費」の取り扱いについて	36
⑦ 清心館「学生談話室」の利用について	37
⑧ 立命館大学人文学会	37
⑨ 文学部事務室について	38



人文総合科学インスティテュート
総合プログラム 教学紹介

1 人文総合科学インスティテュート総合プログラムとは

現代社会は日々、新たな変革をとげながら、常に新しい姿を見せています。人間と社会をとらえる学問も、複雑に変容する社会に対応し、ますますその幅を広げ、深さをきわめつつあります。もはや単一の視点だけでとらえることができない、その複雑さこそが現代社会を特徴づけるものです。

総合プログラムは、このように複雑に変容する現代社会に真正面から取り組むことをめざしたプログラムです。

複数の学問手法を身につける

複雑に変容する社会とそこに生きる人間を理解するには、学問領域を自由に横断しながら、複数の視点から事象をとらえることが必要です。人間は歴史という時間的空間、地理という場所のなかに生きながら、ことばにより自己を表現し相手を理解し、社会とのきずなをつくりあげます。そこで人間は心と心の触れあいと葛藤を繰り返しながら、自己を成長させていきます。

人間は元来、総合的な存在です。複雑な現代社会とそこに生きる人間を総合的にとらえるため、単一の学問手法を身につけるのではなく、複数の学際的な学問手法と視点を身につける。それが総合プログラムのめざすものです。

じっくりと専攻領域を決定

総合プログラムの大きな特徴は専攻を定めずに入学してくる点にあります。この点で、総合プログラムはアメリカの大学の制度によく似ています。アメリカの大学は専攻を決めずに入学し、三回生になる頃に専攻を定めます。

この長所は専攻領域をじっくりと決めることができることです。高校卒業後、はじめて学問に志す人の多くは未知の領域に踏み出す前に専攻を決めなければなりません。しかし、実際に学び始めてみて、思っているものと違ったということがあるものです。また、はじめは興味のなかった分野であっても、実際に触れてみると心躍らせるものであることがわかったということも多いものです。総合プログラムではあなたがほんとうに取り組みたい専攻をじっくりと見定めたいうえで、その分野に進むことができます。

新しい視点で専攻に取り組む

総合プログラムがめざすのは複数の学問的手法・視点を身につけながら専攻に取り組むことです。入学当初は幅広く学問領域を学びながら、次第に自分が学びたい専攻をしぼり込んでいきます。三回生に進級する時点で、専攻を定め、各専攻・プログラムに異動を行います。異動先では総合プログラムで養った幅広い人文学の素養を活かしながら、新しい視点で専攻に取り組めます。三回生以降も総合プログラムを選んで学ぶことも可能ですが、基本は三回生での各専攻・プログラムへの異動です。

三回生で各専攻・プログラムに異動する人は、それまでにない新しい発想、考え方、アプローチで専攻領域に取り組むことができます。そこから人文学の枠組みを超えた新しい知を切り拓くことができます。受け入れる各専攻・プログラムでも、新しい視点をもって専攻に取り組むみなさんに大きく期待しています。

2 総合プログラムでの学び方

総合プログラムのみなさんは、多様な人文学の諸分野の中から、自分にあった専門分野やテーマを見つけなければなりません。これは皆さんが思っているより大変なことです。文学部では10の専攻と3つのプログラムがあります。その中から自分に適した専攻・プログラム、もしくはそれらいくつかの組み合わせを見つけ出さなければなりません。そのためにもみなさんは1回生の時点から「4年間の学修の流れ」をイメージすることが求められます。1回生だから1年間のことだけを考えていたらよいというわけではないのです。したがって、本冊子「教学の手引き」は必ず全て読み、みなさんの4年間の学修計画をイメージするよう努めてください。

また、総合プログラムは柔軟な進路選択ゆえに、その履修方法や手続などが複雑です。制度的な側面も十分理解

した上で学修計画を立てるようにしてください。特に、2002・2003年度に入学した方で教職課程の履修を進めている方は、「3回生進級の際の注意事項」をよく読んでおいてください。

(1) 1・2回生での学修

① 学修計画の概要

1・2回生では、以下の3つの点を重視して学修します。

人文学諸分野の総合的学修

総合プログラムで開設している「人文総合科学研究入門（1回生）」（略称「研究入門」）、「人文総合科学基礎講読Ⅰ・Ⅱ（2回生）」（略称「基礎講読」）で人文学の諸分野の方法論を中心に学びます。それと同時に、他専攻・プログラムの専門科目を積極的に学び、各分野の具体的内容を身に付けてください。人文学の諸分野を学ぶと同時に、将来的にどのような分野を専門として研究対象としていくのか、常々考えるよう習慣づけましょう。

英語運用能力

英語の運用能力を徹底的に鍛えます。読解能力は「英書講読入門Ⅰ・Ⅱ（1回生）」で、運用力は外国語の授業（1～2回生）で学修します。

情報処理能力

人文学における研究にも情報処理能力は必要不可欠となっています。総合プログラムでは、1回生時は文学部1回生全員が受講する「リテラシー入門」で、2回生時は総合プログラムおよび国際プログラムだけの科目「人文総合科学情報処理Ⅰ・Ⅱ」で学修します。

① 1回生

分野	学 修 の 内 容
人文学の学修	研究入門 人文学の領域を以下の5つに分け、人文学の主要な領域の学問手法を身に付けます。1つの領域で4回講義を行い、各領域においてその講義内容をレポートにまとめ、提出します。1年間かけて5領域を学びます。また、研究入門では講義以外にワークショップという研究発表の場も設けます。研究入門の内容は別項で詳しく説明します。必ずよく読んでください。 A領域：表現文化系 文学や芸術など、文化として表現される領域です。文学部の専攻では、日本文学、中国文学、英米文学などがこれに該当します。 B領域：文書史料系 主として文書や史料を研究対象とした領域です。文学部の専攻では、日本史学、東洋史学、西洋史学などがこれに該当します。 C領域：フィールドリサーチ系 机上だけではなく、屋外のフィールドを研究対象とした領域です。文学部の専攻では、日本史学考古学コース、地理学がこれに該当します。 D領域：行動科学系 人間を研究対象とした科学的アプローチを主とする領域です。文学部の専攻では、教育人間学、日本文学（日本語学）、英米文学（英語学）、心理学がこれに該当します。 E領域：メタ思考系 人間の思考や思想を対象とした領域です。文学部の専攻では、哲学などがこれに該当します。

分野	学 修 の 内 容
人 文 学 の 学 修	各専攻・プログラムの1回生担当専門科目 各専攻・プログラムにある1回生専門科目は、それぞれの学問領域を初めて学ぶ学生のための入門的な講義となっています。積極的に受講して、人文学の各分野での基礎作りに励んでください。各領域に対応する推奨科目は以下のとおりです。1回生ではなるべく多くの分野に接して欲しいので、各領域1科目は受講するようにしたいものです。具体的な内容はオンラインシラバスを参照しましょう。(人文：人文科学総合講座) A領域：日本文学概論Ⅰ・Ⅱ、中国文学概論Ⅰ・Ⅱ、英米文学概論Ⅰ・Ⅱ、英語表現概論、アジアの文学（人文）、英語文学（人文） B領域：日本史概説Ⅰ～Ⅷ、日本現代史概説Ⅰ・Ⅱ、東洋史概説Ⅳ・Ⅴ、西洋史概説Ⅰ～Ⅴ、史学概論Ⅰ・Ⅱ（人文） C領域：考古学概説Ⅰ・Ⅱ、人文地理学概論Ⅰ・Ⅱ、自然地理学概論Ⅰ・Ⅱ、地誌（日本）Ⅰ・Ⅱ、地誌（世界）Ⅰ・Ⅱ D領域：日本語学概論Ⅰ・Ⅱ、英語学概論、心理学概論Ⅰ・Ⅱ、言語学Ⅰ・Ⅱ（人文） E領域：哲学概論Ⅰ・Ⅱ、倫理学概論Ⅰ・Ⅱ、宗教学概論Ⅰ・Ⅱ（人文） その他、自主学修について【重要】 総合プログラムに所属するみなさんの場合、幅広い学修をする反面、他専攻の学生に比し、どうしても特定分野の知識の深化に欠ける面が否めません。しかし、それは個々の自主学修で充分埋め合わせることが可能です。各領域の推薦図書を「5参考文献」に記載していますので、1年間に少なくとも各領域2冊程度は読むようにしてください。人文学を学ぶ上で、文献の講読は必要不可欠です。授業だけが学修ではありません。むしろ、授業で得た考え方や疑問、喚起された興味や関心について自ら調べて、自ら考察することこそが大学における学修といえるでしょう。特に総合プログラムに所属するみなさんには自ら学ぶ習慣を身に付けることが重要です。自主学修で積極的に様々な文献を読む習慣を身に付けるようにしてください。
外 国 語	英書講読入門Ⅰ・Ⅱ どの学問分野を目指すにせよ、英語の読解能力は必要不可欠といえます。総合プログラムでは専門科目として英書講読入門Ⅰ・Ⅱを開設しています。これは人文学に関連する文献を講読する授業で、全員必ず受講しなければならない登録必修科目です。前期で「Ⅰ」を、後期で「Ⅱ」を受講して、専門科目として認定されます。 第1外国語・第2外国語 文学部共通で、1回生時に第1外国語、第2外国語をそれぞれ6単位ずつ受講しなければなりません。総合プログラムの場合、第1外国語か第2外国語でかならず英語を選択しなければなりません。
イ ン ゲ デ ミ ッ ク 情 報 処 理 テ ラ イ テ	リテラシー入門 文学部共通の科目で、文章作成能力（アカデミックライティング）および情報リテラシーの基礎を養成する科目です。アカデミックライティングでは年間3回テーマを定めてレポートを課すなどします。情報リテラシーでは、実際にパソコンを使用しながら基本的な利用方法を実習します。登録必修科目で必ず受講しなければなりません。1年を通じて学修し、教養科目として認定されます。

* 上記以外にも、1回生から教養（基礎）科目の履修を進めなければなりません。

② 2 回生

分野	学 修 の 内 容
外国語	基礎講読Ⅰ・Ⅱ 1 回生での学修で、ある程度自身の興味や関心が固まってきたと思います。1 回生で A～E の 5 領域を学んだことを基礎に、2 回生では 2 つの領域に絞って学修します。同じ領域を 2 つ受講することはできません。授業内容は研究発表を中心としたものとなります。また、この基礎講読Ⅰ・Ⅱは、国際プログラムの学生と一緒に受講することとなります。 人文総合科学概説Ⅰ・Ⅱ 人文学のコアとなる学問手法を総合的・学際的なアプローチで概説する科目で、1 回生時にみなさんが学んできた人文学の内容をまとめる役割を担います。総合プログラムの学生は「Ⅱ」を登録必修科目としていますが、なるべく「Ⅰ」もあわせて受講するようにしましょう。
人文学の学修	各専攻・プログラムの専門科目 この段階になると、かなり興味や関心が定まってきたと思います。その分野の専攻の 1・2 回生専門科目を中心に履修すればよいでしょう。2 回生配当で特殊講義が開設されている専攻もありますが、1・2 回生の間にはなるべく概説や概論と呼ばれる科目を多く履修するのが良いでしょう。 また、2 回生の間に、どのような人文学の学問的手法を身につけようとするのか、よく考えるようにしてください。例えば、歴史的アプローチ、地理学的アプローチ、文化的アプローチ、などが代表的なものとしては考えられます。マスターすべき学問手法は何か、常に考えるようにしましょう。 さらに、興味がある専攻・プログラムが既にある場合は、その専攻・プログラムが推奨する科目をなるべく受講するようにしましょう。その専攻に所属している学生しか受講できない科目でも、総合プログラムの学生なら受講できる方法があります。その受講の手続きは「③専攻科目の受講について」という項で説明しておりますので、よく読んでください。
外国語	人文総合科学外書講読Ⅰ・Ⅱ 1 回生の「英書講読入門Ⅰ・Ⅱ」で学んだ英語読解力をさらに伸ばすことを目的とした科目です。登録必修科目で必ず受講しなければなりません。英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、イタリア語とありますが、基本的には英語を受講してください。ただし、将来的に他の言語を学修した方が良いと判断された場合は、英語以外を受講してもかまいません。皆さん自身の判断で選択してください。この科目は、学際プログラム、国際プログラムと共同開講です。 第 1 外国語 文学部共通で、第 1 外国語に英語を選択した場合は「英語Ⅶ・Ⅷ」を、初修外国語を選択した場合は「〇〇語・応用」を受講することとなります。
情報処理	人文総合科学情報処理Ⅰ・Ⅱ 1 回生時に「情報リテラシー」「人文総合科学情報処理入門」（2003 年度以前入学生）、「リテラシー入門」（2004 年度以降入学生）で学んだ情報処理の基礎を、本科目でさらに伸ばします。この科目は登録必修科目で必ず受講しなければなりません。教養（基礎）科目として認定されます。

③ 専攻科目の受講について

通常、所属していない他の専攻の科目については、受講できる科目とできない科目があります。それらの科目は、履修要項の科目一覧表に、「※」印が付いている科目です。原則として、講読の科目や実験実習科目は少人数のクラス編成をしていますので、その専攻の学生以外は受講することができません。

ただし、総合プログラムの皆さんは2回生になると、それらの科目のうち、1・2回生配当の以下の表の科目を受講することができるようになっていきます。これは、3回生進級時の進路選択のための特別な措置です。ただし、定員制限があり、予備登録が必要です。

これらの科目の履修は、決して安易に考えないでください。これらのほとんどの科目は、その専攻の学生にとっては必修科目もしくは登録必修科目となっています。安易な受講と履修放棄は、授業運営に重大な支障をきたします。これらの科目を履修しながら出席しなかった、安易に単位を落とした、その科目とは異なる専攻を3回生進級時に志望した、などというケースは、専攻異動の選考の際、大きなマイナスポイントとなります。

なお、以下の「※」印の科目の履修は、1科目あたり3,000円の履修料が必要です。

専 攻	科 目	専 攻	科 目
哲 学	哲学・倫理学文献講読（2回生）	日 本 史 学	日本史史料講読（2回生）
教育人間学	教育人間学外書講読（2回生）		考古学実習入門（2004年度以降入学生1回生、 2003年度以前入学生2回生）※
日 本 文 学	日本文学講読演習Ⅰ（2回生）		漢文史籍読解（1回生）
	日本文化講読演習Ⅰ（2回生）	東 洋 史 学	東洋史講読演習Ⅰ（2回生）
中 国 文 学	漢語・漢文法（1回生）	西 洋 史 学	西洋史講読演習Ⅰ（2回生）
	中国文学講読演習Ⅰ（2回生）	地 理 学	地理学実習（1回生）※
英 米 文 学	英会話Ⅰ・Ⅱ（2004年度以降入学生2回生、 2003年度以前入学生1回生）		野外実習Ⅰ・Ⅱ（2回生）※
	英書講読（Advanced）（2回生）	心 理 学 (注)	心理学統計法（2回生）
	英作文法Ⅰ・Ⅱ（2回生）		心理学研究法Ⅰ～Ⅲ（2回生）
			心理学基礎実験実習（2回生）※

※（ ）は所属専攻の学生が履修する場合の配当回生を記しています。

・登録方法

申し込み方法：専攻科目受講申込書の提出による

申し込み締切：4月4日（月）18：30まで（締切厳守）

提 出 場 所：文学部事務室

結 果 発 表：4月6日（水）10：00～18：30文学部事務室にて結果を受領すること

（注）心理学専攻に掲げている科目の一部は所属専攻の学生しか受講できない科目ではありませんが、将来、心理学を目指す方には是非受講しておいて欲しいという意味を込めて、ここに掲載しました。したがって、受講に際し、特に特別な手続きは必要とせず、本登録のみで結構です。

(2) 3・4回生

① 3・4回生

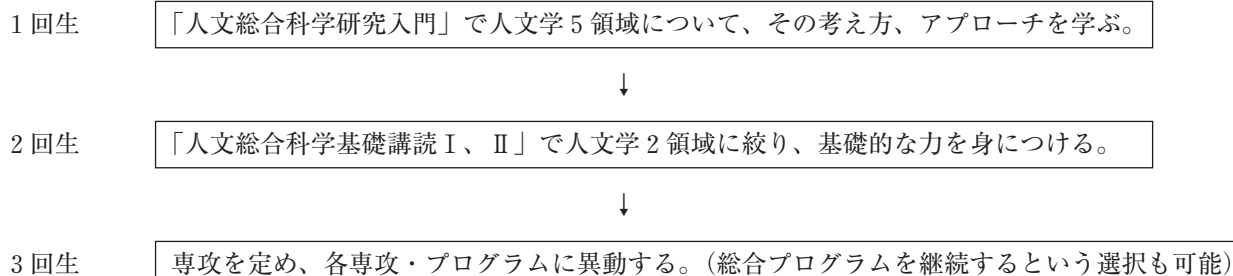
総合プログラムのみなさんは、3回生進級時に他専攻・プログラムに異動するか総合プログラムを継続するか選択するわけですが、ここでは継続した場合の学修について解説します。

分野	学 修 の 内 容
人 文 学 の 学 修	ゼミ（演習） 総合プログラムを継続した場合、ゼミ（演習）として「テーマリサーチ型ゼミナール」を履修することとなります。テーマリサーチ型ゼミナールは、他専攻にある伝統的な人文学の学問分野に区分されたテーマを扱うのではなく、人文学の学際（複数の学問分野に関わる研究）的で新しいテーマを取り扱うゼミナールです。テーマリサーチ型ゼミナールは、専攻やプログラムにかかわらず学生を積極的に受け入れる活気あふれる演習です。2005年度のテーマは次ページにあるとおりです。テーマは年度ごとに変更されます。 文学部にとって、ゼミは非常に重要な位置を占めています。ゼミの学修を通じて最終的には4回生時に「卒業論文」を作成し、その「卒業論文」が大学における4年間の学修の集大成と位置付けられているからです。テーマリサーチ型ゼミナールでは、「卒業論文」という形式のほか「卒業制作」に取り組むことも可能です。どのような形態であるにせよ、その重要性に変わりはありません。3回生時から4回生時に作成する卒業論文、卒業制作をイメージして、演習に取り組むようにしてください。
	各専攻・プログラムの専門科目 3回生での専門科目の学修は、演習に関連した科目を履修するように心掛けてください。特に、取り扱うテーマの関連性だけでなく、その取り組む学問的手法を意識して学修に取り組んでください。言語学的アプローチを取るなら日本文学専攻、英米文学専攻の日本語学、英語学の関連の科目や心理学の関連科目を履修するのも良いでしょう。歴史学的アプローチなら、日本史・東洋史・西洋史の史学史や学際プログラムの歴史人類領域の諸科目も良いと思われます。演習担当の教員によく相談してください。 また、人文科学総合講座の「外国文化講読（通年4単位）」は学部共通の登録必修となっていますので、忘れずに履修しましょう。第1外国語のものを選択することとなります。
	人文総合科学外書講読Ⅲ・Ⅳ 3回生時の「人文総合科学外書講読Ⅲ・Ⅳ」は登録必修ではありませんが、極力、受講するようにしてください。外国語による文献講読ですが、内容は、人文学の諸領域に関連するもので、みなさんの人文学の学修に大いに寄与するものです。学際プログラムが中心となって運営している科目なので、予備登録は学際プログラムに申し込むこととなります。

② 進路の進学

総合プログラムの特徴は3回生に進学する時点で、専攻を定め、各専攻・プログラムに異動する点です。3回生以降も総合プログラムを継続するという選択も可能です。しかし、総合プログラムでは複数の学問的視点を身につけ、専攻に取り組むことを基本としています。

専攻を決める流れは大きく次のようになります。



総合プログラムの学生のみなさんは、3 回生進級時に他専攻・プログラムへ異動するか、総合プログラムへの所属を継続するか、という大きな選択をしなければなりません。進路選択は2 回生の11月頃に行う予定です。進路選択が決定した後、3 回生における所属の専攻・プログラムの3 回生ゼミ選択が12月から翌年の1 月にかけて行われます。どのような進路選択をした場合でも、クラス定員と希望者数の関係で、必ずしも希望の先生や分野のゼミに所属できるとは限りません（総合プログラムから他専攻・プログラムに移動した場合でも、その異動先の専攻・プログラムのゼミ選択では1 回生からその専攻・プログラムに所属する学生と全く同じ条件でゼミ選択の抽選・選抜が行われますので、ご安心ください）。したがって進路選択はゼミの内容などではなく、卒業研究としてその専攻やプログラムの学問分野を選択する、という判断で行ってください。時に人文学の範囲を超える分野に進みたいという学生もいますが、文学部で学ぶことができるのは人文学およびその関連ですので、そういう方は転学部をお勧めします。

では、以下にそれぞれの選択に関して説明をします。

③ 総合プログラムを継続する場合

総合プログラムを継続する場合は、「テーマリサーチ型ゼミナール」を卒業のための演習（ゼミナール）として選択することとなります。テーマリサーチ型ゼミナールは、他専攻にある伝統的な人文学の学問分野に区分されたテーマを扱うのではなく、人文学の学際（複数の学問分野に関わる研究）的で新しいテーマを取り扱うゼミナールです。テーマリサーチ型ゼミナールは、総合プログラムだけではなく、国際プログラムや他専攻・プログラムの学生も参加する、活気あふれる演習です。2005年度3 回生ゼミは以下のテーマを開講しています。テーマは年度ごとに変更されます。

分 野	テ ー マ	担 当 者
歴史と思想	他者問題と文化理解	向井 俊彦／服部 健二
	教育現場と学校文化	村島 義彦／伊勢 俊彦
	オーラル・ヒストリー 2	前原 圭介
	暴力とヒューマニティー	加國 尚志／谷 徹
人間と文化	文化としての「移動」 2	高橋 秀寿
	世界の文化と多言語多文化社会における共生 2	上野 隆三／石井美桑雄／下川 茂
	性(性別)を考える～ジェンダー理論と表象分析～	中田 崇
	書籍とその周辺	中西 健治
言語と情報	辞書をつくる	朝尾幸次郎
	現代中国語文化圏(“兩岸三地”)の現在と中国語	宇野木 洋／岡田 英樹
	実践から学ぶ日本語教育	北出 慶子
	情報科学技術による言語諸学の展開	田中 省作
国際／地域社会	京都から発信する京都文化学	中本 大／三枝 暁子
	日本における中国文化の受容…儀礼・祭事等に見る	松本 保宣
	絵画からみる都市の風俗	川嶋 将生
	「宗教」から読み解く韓国朝鮮文化	佐々 充昭
地球と環境	ECOTOURISMエコロジーの旅 2	DAVID PEATY
	先進国と発展途上国の都市環境	江口 信清／生田 真人
	都市と村落の環境史	河角 龍典

3・4 回生時、特に3 回生時に重要なのが、以上のテーマを追究する上でベースとなる諸分野の知識の習得に努めなければならない点です。なお、テーマリサーチ型ゼミナールを選択した場合は、そのテーマとかかわりのある講義科目をあわせて履修し、統一した学び方をすることが望まれます。

④ 他専攻・プログラムに異動する場合

他専攻・プログラムへ異動することを考えている場合、異動先の学問内容を事前に十分調べなければなりません。その専攻・プログラムの外からだと、案外そこで展開されている学問内容が正確にわからないものです。専攻の名称から来るイメージと内容とのギャップに戸惑わないよう事前準備を怠らないようにしてください。

総合プログラムでは、1回生と2回生で履修指導面談があります。相談にのる教員は文学部の各学問分野の教員です。進路選択について積極的にたずねるようにしましょう。また、各専攻・プログラムの教学の手引きが文学部のホームページにアップされていますし、各専攻・プログラムのホームページも参考になります。その専攻・プログラムで執筆された卒業論文の論題（タイトル）の一覧を見ると、その専攻・プログラムで何が研究できるのかイメージできるでしょう。代表的な卒業論文の論題一覧は、次項以降に記載しています。

また、他専攻・プログラムに異動を考えている場合、その専攻・プログラムの科目をできるだけ受講することも重要です。以下に異動を希望する場合の推奨科目を記載していますので、学修計画の一助としてください。

<他専攻／インスティテュート他プログラムへ異動を希望する場合の推奨科目>

専攻・プログラム	科 目
哲 学	哲学概論Ⅰ～Ⅳ、倫理学概論Ⅰ・Ⅱ（どちらか4単位） 哲学史Ⅰ～Ⅵ（4単位以上） ※ドイツ語もしくはフランス語の履修
教 育 人 間	教育人間学概論Ⅰ～Ⅵ（6単位以上）
日 本 文 学	1・2回生担当の日本文学専門科目の履修
中 国 文 学	漢語・漢文法、中国文学講読演習Ⅰ、1・2回生担当の中国文学専門科目 ※中国語の履修
英 米 文 学	英書講読（Advanced）（2回生） 1・2回生担当の英米文学専門科目（2単位以上） ※英語の履修
日 本 史	（日本史コース）史学概論Ⅰ・Ⅱ、日本史概説Ⅰ～Ⅷ、日本現代史概説Ⅰ・Ⅱ、日本史史料講読 （考古学コース）考古学概説Ⅰ・Ⅱ、考古学実習入門、考古学史など
東 洋 史	史学概論Ⅰ・Ⅱ、漢文史籍読解、東洋史講読演習Ⅰ ※中国語の履修
西 洋 史	西洋史概説Ⅰ～Ⅴ（2単位以上）、西洋史講読演習Ⅰ ※ヨーロッパ言語の履修
地 理	地理学実習、1・2回生担当の地理学専門科目
心 理 学	心理学概論Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ～Ⅲ、心理学統計法
学際プログラム	1・2回生担当の学際プログラム専門科目
国際プログラム	特になし

<代表的な卒業論文の論題>

以下に挙げる論題はほんの一例です。ここに記載したのは、各専攻・プログラムでどのような教学が展開されているか、皆さんにイメージしていただくためです。3回生進級時の参考としてください。

哲学専攻

ユートピアの可能性—『否定弁証法』を中心に見るアドルノ哲学—
 キルケゴール『あれか—これか』第一部「美的実存“A”」の検証
 『自由』についての考察—シェリングの初期思想における「自由」について—
 「私」と「他者」の想像力—想像力の働きについての美学的考察—
 命はどのように考えられるか—ベルクソン『創造的進化』を手びきに—
 知識の基礎について—ヴィトゲンシュタイン『確実性の問題』から—
 アリストテレス『ニコマコス倫理学』についてアリストテレスの幸福論

教育人間学専攻

純粹経験としての愛の探求－西田幾多郎の『善の研究』をめぐって－
『学問のすすめ』から見た現代社会論
“自分らしさ” 批判－人間形成におけるアイデンティティの問題について－
破壊と生成の美－シラーの美的教育論における崇高概念から現代の美的人間形成を考える－
居場所の構築－実践とその課題－
幼児期から学童期における教育・子育て・支援ネットワーク－保育園・小学校・学童保育の連携の中で－
自己・存在・肉体－内的差異から生成する自己と所有者としての肉体－
＜魂＞の視点から見た芸術
人間形成における「虚構」の創造について
福祉現場における権利擁護を阻害する形成要因
働く母親のもつ「意識」と「子育て感」
心身相関的治療の実証的研究～手当ての効果を中心に～

日本文学専攻

万葉歌における早稲の考察
『大鏡』論－小野宮家の周辺－
南新宮に伝わる丹鶴姫伝説の背景
漢画系画題の文学的研究
近世における上方絵の考察－上方絵師芳滝を中心に－
『桑名日記』における仮定条件表現について
与謝野晶子『みだれ髪』論
芥川龍之介『河童』論－風刺の意味をめぐって－
平野啓一郎がめざすもの－『日蝕』を中心に－

中国文学専攻

中国第五世代映画監督の作品における文化大革命
魯迅小説における郷土性
美人は国を滅ぼすか？－長恨歌の楊貴妃を中心に－
猪八戒の武器について
『封神演義』に見える神仙の世界について
孫子と戦争
顔真卿の生涯と書－何が人の心を捉えるか－

英米文学専攻

Saul Bellow's Artur Sammler : A Displaced Person of Insight in New York
Toni Morrison *Beloved* 研究 過去との和解と Sethe の再生について
The Adventures of Augie March 研究 メタファーとしての動物の役割
Kate Chopin 研究－短編に見られるショパンの女性像－
Flowers for Algernon 研究－知能は Charlie に幸せを与えたか
William Golding, *Lord of the Flies* 研究－「死」がもたらしたもの－
Oscar Wilde, *The Picture of Dorian Gray* に描かれた美と破滅
Melody Carlson's *Diary of a Teenage Girl: Diary Keeping for Self-Discovery*
The Prototype of the Resultative Construction

日本史学専攻

近世日本人の朝鮮観に関する－考察
古代宮都における藤原京の意義－藤原京が残したものとは－

明治期の外国人居留地における華僑について

Reasons behind the Japan expedition—American Frontier and capitalism—

帰国後の大黒屋光太夫

八～九世紀初期の斎宮—大中臣清麻呂の動向・役割に注目して—

西日本における縄文時代後晩期の墓制

足利氏による源氏嫡宗権の主張と足利幕府の成立—南北朝期における武士の棟梁観—

政党内閣の終焉と元老西園寺公望

「近世・近代瀬戸・美濃窯業の復元」～陶磁器窯の変遷を中心として～

剥片尖頭器の系譜—九州と朝鮮半島との比較—

後鳥羽上皇の政治課題—承久年中の修法、熊野・賀茂社との関係—

中世前期新見荘における商業—非農業民と市場の性格、都市的評価との関連で—

江戸初期の『美術市場』についての考察—絵画を中心に—

近代日朝関係と閔妃政権

膨張する思考—明治中期において—

古墳時代における須恵器地方窯の成立

古代都城の煮炊具—その使用痕観察から—

東洋史学専攻

「土木の変」前後の辺防衛戦力について

宋代の家庭教育—母親の役割を中心に—

中国における近代教育システム形成の諸問題

唐三彩について—明器を中心に—

宗慶齡の女性解放思想と行動

西周右者考

ソグド人の東方活動について

李斯の議論に見える郡県制について

墨子説話諸篇序論

曹操政権論

香港返還における英中交渉

匈奴における乳製品の利用—酪と酥を中心に—

西洋史学専攻

近世アイルランド・イギリス関係史—アイルランドで何が行われ何を得たのか—

多民族国家アメリカにおける言語問題～二言語教育のあり方～

ゴシック教会堂—サン・ドニにおける教会堂の成立—

中世イスラーム治下のイベリア半島における諸文化と共存

Scottishnessの誕生—中世スコットランド王国統一の過程から—

「アラビアのロレンス」と中東—19世紀～20世紀初頭のイギリスにおけるアラブ観～

中世末期フィレンツェのコムーネと慈善—オルサンミケーレ兄弟会の活動をとおして—

ワイマル共和国におけるナチスの台頭—ナチスは特殊ドイツ的現象か？—

1931年万国植民地博覧会のパヴィリオン近代人類学の成果

古代末期・初期中世ヨーロッパにおける聖人崇拜その多様性と性質について

ディートリッヒの「脚」—ワイマル文化のアイコン、あるいは崩壊のメルクマール

地理学専攻

CVMによる河川の価値評価と距離減衰性の考察—桂川と鴨川における事例分析—

諸営業形態からみた明治期以降における旧宿場町の変容—旧京街道枚方宿の岡村を例として—

温泉地における宿泊施設の立地展開と質的变化～神奈川県箱根町を事例として～

京都三条商店街における店舗立地と周辺地域の関連性—小単位地区データに基づく地域構造の分析—
情報化社会における倉庫機能の空間的変容—愛知県小牧市を中心として—
都市間競争に伴う中心商業地の構造変化—神奈川県厚木市・海老名市を例に—
大正期、二条駅周辺における木材業者の分布
駅周辺における自転車放置と駐輪場整備—京都市の事例—
棚田オーナー制度に関する比較検討—京都府北部を事例として—
大型ショッピングセンター立地による買物行動の変化—愛媛県新居浜市を中心にして—
都市外縁部に位置する市街化区域内農地の減少過程—京都市伏見区久我・羽東師を事例にして—
大阪市大正区における沖縄関連店舗の立地展開
部落産業の成立に関わる労働力の移動—大阪府南部の製線業を例にして—
昭和初期における女性の就業構造—大阪市周辺の女中を中心に—
平安京における地下水環境とその変化について
1年を通じての公園利用に関する考察—箕面市と千里ニュータウンを事例として—
名所図会類にみる近世・宇治川の河川利用
北海道中富良野町における環境保全型稲作の地域的展開
寺社奉納絵馬からみる水害の地域性
第二次世界大戦前における女工幹旋業の成立システム—新潟県栃尾郷を例にして—
新しい繁華街の形成にみる空間と文化の相互作用—裏原宿・大阪堀江・京都御幸町を事例として—
京都市における書店の店舗特性と立地変動—1980年から2002年を事例として—

心理学専攻

学校教育場面における書くことの有効性の検討
絵画「制作者」の視覚探索特性および描写の検討
認知リハビリテーションによる学習療法の効果—高齢者の痴呆抑制と小学児童の学力向上の検討—
公的及び私的状況における自己評価維持モデルの検討
児童の効力感を育む要因としての達成感イベントの検討
目撃証言における統合仮説と共存仮説の検討

学際プログラム

わが国の学校給食の諸問題
裸体表現—そこに秘められた聖と俗—
明治期の「唱歌」導入と「蛍の光」—日本人とスコットランド音楽—
白粉化粧の変遷
イスラームにおける啓典と社会のかかわり—クルアーン研究序説
観光と宗教文化との関連について
ナンセンス絵本と空間—長新太の開いた扉—

テーマリサーチ型ゼミナール

《テーマリサーチ型ゼミナール》卒業論文形式

京都と観光—リピーターを獲得するような修学旅行の提案を目指して—（京都から発信する）
祇園祭を彩る景観色彩—景観を守る企業努力—（京都から発信する）
テキストとしてのマンガ論（他者問題と文化理論）
対話的コミュニケーションの地平：薄れゆくわたしの主体性に（他者問題と文化理論）
竹久夢二の女性観（ジェンダーと文化）
沖縄女性はこう語られてきたか—女師—高女における服装を中心として（ジェンダーと文化）
中国漢字の簡略化問題（現代中国文化圏の現在と中国語）
年画と浮世絵による文化比較（現代中国文化圏の現在と中国語）

《テーマリサーチ型ゼミナール》卒業制作形式

留学生のための『日本事情入門』テキストの制作（アジアにおける日本研究）

マルチメディア視聴覚英語教材の制作（英語（言語）教育とグローバリゼーション）

日本全国方言プロジェクト：テキストと音声による資料収集と公開（英語（言語）教育とグローバリゼーション）

⑤ 他専攻・プログラムに異動する場合の注意事項（2004・2005年度入学生適用）

i) 異動可能専攻・プログラム

	学科	専攻・プログラム
人文学科	哲学専攻	教育人間学専攻
	日本文学専攻	中国文学専攻
	英米文学専攻	西洋文学専攻
人文学科	日本史学専攻	東洋史学専攻
	（日本史コース、考古学コース）	西洋史学専攻
	地理学専攻	学際プログラム
心理学科	国際プログラム※	
	心理学専攻	

※ 3 回生進級時に国際プログラムへ異動できる方は、総合プログラム所属の方のみです。他の方は、転籍制度を利用しても、3 回生進級時に国際プログラムへは転籍できません。

ii) 選考方法

基本的には書類選考で行います。なお、希望者が多い場合は、必要に応じて面接を行います。

iii) 募集人数

1 専攻・プログラム最低 5 名の受入枠が設定されています。もちろんそれ以上受け入れる場合もあります。

【過去の異動状況】※過去の異動状況では、希望者は全員受入の許可を得ています。

<2003年度>

教育人間学専攻（1 名）、日本文学専攻（3 名）、英米文学専攻（3 名）、学際プログラム（6 名）

国際プログラム（2 名）、心理学専攻（4 名） 計19名

<2004年度>

哲学専攻（1 名）、教育人間学専攻（3 名）、日本文学専攻（5 名）、英米文学専攻（5 名）

日本史学専攻（3 名）、西洋史学専攻（2 名）、地理学専攻（1）、学際プログラム（11名）

心理学専攻（2 名） 計33名

iv) 教職課程を履修している場合（重要）

【人文学科】

人文学科所属学生は原則として英語以外のすべての免許教科を自由に取得できます。ただし、時間割配置上、必ずしも 4 年間で希望するすべての免許教科が取得できるとは限らないので注意して下さい。なお、下記表にあるように、下線の教科が専攻教学上密接に関連する教科となるため、その教科の履修が最も望ましくなります。

【心理学科】

心理学科へ異動を希望する場合、取得できる教科は、社会と公民となりますので、注意してください。取得できる教科以外の教科の免許を取得したい場合、所属する専攻の免許を取得する見込みのある方に限って許可される他教科免許履修の制度（3 回生より受講開始）がありますので、そちらを申し込んでください。

【人文学科で取得できる免許状】

専攻・プログラム		取得可能免許教科
哲 学 専 攻		社会・ <u>地理歴史</u> ・ <u>公民</u> ・国語・（英語）
教育人間学専攻		社会・ <u>地理歴史</u> ・ <u>公民</u> ・国語・（英語）
日本文学専攻		社会・地理歴史・公民・ <u>国語</u> ・（英語）
中国文学専攻		社会・地理歴史・公民・ <u>国語</u> ・（英語）
英米文学専攻		社会・地理歴史・公民・国語・ <u>英語</u>
日本史学専攻		社会・ <u>地理歴史</u> ・ <u>公民</u> ・国語・（英語）
東洋史学専攻		社会・ <u>地理歴史</u> ・ <u>公民</u> ・国語・（英語）
西洋史学専攻		社会・ <u>地理歴史</u> ・ <u>公民</u> ・国語・（英語）
地 理 学 専 攻		社会・ <u>地理歴史</u> ・ <u>公民</u> ・国語・（英語）
人文総合科学 インスティテュート	総合プログラム	社会・地理歴史・公民・国語・英語
	国際プログラム	社会・地理歴史・公民・国語・英語
	学際プログラム	社会・地理歴史・公民・国語・英語

※1 下線の教科が専攻教学上密接に関連する教科となるため、その教科の履修が最も望ましくなります。

※2 人文総合科学インスティテュートの学生は、自らの選択する学修計画の専門分野に応じた教科を履修して下さい。

※3 英語を取得する場合、カッコ付きで（英語）と表記している専攻は、免許取得に必要な科目の一部が少人数クラスの為、受講人数に上限を設けています。

【心理学科】

専攻・プログラム	取得可能免許教科
心 理 学 専 攻	社会・公民

v) 教育人間学専攻へ異動を希望される方

教育人間学専攻へ異動した場合、教育人間学専攻の学生は、副専攻の「教育学コース」を受講することができません。履修している人は、辞退することとなります。そのため、修得済みの教育学コースの単位は、要卒単位となりませんので、注意してください。

vi) 国際プログラムへ異動を希望される方は以下の点に注意してください。

国際プログラムで卒業するためには、通常の専攻などと違い、国際インスティテュート専門科目の履修が必要です。通常、国際インスティテュート専門科目は、2・3回生にかけて履修するものです。それらの科目を、3・4回生の2年間で修得しなければならないので、就職活動などを考えると、非常に厳しい履修計画となる事が考えられます。その点を十分考慮に入れて希望してください。

	必要単位数	
国際インスティテュート専門科目	14単位以上	合計30単位以上
国際インスティテュート専門外国語科目	12単位以上	

国際プログラムを選択する場合、副専攻（全学副専攻、学部副専攻）を履修することはできません。国際プログラムへの異動が決定した場合は、副専攻を辞退する事となり、16単位（教育学コースの場合は20単位）以上を修得していない場合、修得済みの副専攻の単位は要卒単位となりませんので、注意してください。ただし、副専攻初修外国語4単位コースは引き続き履修できます。

vii) 注意点

異動選考の結果が「否」となった場合は総合プログラムを継続することとなります。

異動が決まった後の辞退や3・4回生途中での変更などはできません。異動先のカリキュラム（特に、卒業に必要な科目など）をよく理解して、異動の希望を出すようにしてください。異動先の卒業に必要な科目の単位が取得できそうにないからといって、総合プログラムへ戻るといったことはできません。異動先のカリキュラムは、文学部ホームページにある「各専攻・インスティテュートの教学の手引き」

で見ることができます。また、各専攻・プログラムの「教学の手引き」は総合プログラム共同研究室にも配置してあります。

〈実験実習費が必要な専攻について〉

教育人間学専攻、日本史学専攻考古学コース、地理学専攻、心理学専攻は、実験実習費（¥20,500：2004年度実績）が必要です。学費と一緒に請求されます。

viii) 異動後の履修

総合プログラムの学生が他専攻へ異動した場合、卒業する為には異動後専攻の卒業要件を満たす必要があります。他専攻・プログラムの必修科目（1・2回生担当科目）は以下表となります。

3回生以降確実に履修をすすめてください。なおこれらの科目は総合プログラムの学生が2回生から履修できる制度も設けられていますので（2(1)③専攻科目の受講について参照）、早い段階から計画的に履修を進める事も可能です。また下記にはあげていませんが4回生ゼミと卒業論文は全ての専攻で必修科目となっています。

専攻・プログラム	異動後履修する授業科目
哲学専攻	哲学・倫理学文献講読（2回生以上） 哲学・倫理学外書講読（3回生以上） } 4科目8単位選択必修
教育人間学専攻	教育人間学外書講読（2回生以上） 2単位必修
	教育人間学実習Ⅰ（2回生以上） 2単位必修
日本文学専攻	日本文学講読演習Ⅰ（2回生以上） 日本文化講読演習Ⅰ（2回生以上） } 2科目8単位必修
中国文学専攻	中国文学講読演習Ⅰ（2回生以上） 2科目8単位必修
英米文学専攻	英書講読（Advanced）（2回生以上） 3科目6単位必修
	英作文法Ⅰ・Ⅱ（2回生以上） 2科目4単位必修
日本史学専攻	考古学コース：考古学実習（2回生以上） 4単位必修
東洋史学専攻	東洋史講読演習Ⅰ（2回生以上） 2科目8単位必修
西洋史学専攻	
地理学専攻	地理学実習（1回生以上） 4単位必修
心理学専攻	心理学基礎実験実習（2回生以上） 2単位必修
	心理学概論Ⅰ・Ⅱ（1回生以上） 1科目2単位選択必修
	心理学研究法Ⅰ（2回生以上） 2単位必修
	心理学統計法（2回生以上） 2単位必修
学際プログラム	該当なし
国際プログラム	該当なし

〔注意〕（ ）の回生は所属専攻の学生が履修する際の配当回生です。

（３）進路指導

〈総合プログラム〉は人文科学全体をじっくり見渡した上で、自分の適性を確認し、3回生時に自分の専門分野を決定するしくみになっています。そこで、適性の確認を促進するために、進路指導を強化しています。11月に全体的な進路指導面接を実施しますが、クラス担任あるいは講義担当者に随時相談してください。

1回生の〈研究入門〉に引き続き、2回生の〈基礎講読〉では、5領域を2つ選択し、前・後期で各1領域を学修します。12月～1月に次年度開講クラスの仮メニューに基づき、受講希望調査を行い、本メニューを最終的に決定します。受講生の意見を柔軟に反映したクラス編成を追求します。

2回生時にも、適宜、みなさんの進路指導を実施する予定です。3回生の進路選択に向けて、色々な先生に相談するようにしましょう。

3回生進級時には、みなさんは進路を選択しなければなりません。進路選択で一番重要な視点は「卒業論文」のテーマです。今まで繰り返し学んだ経験や知識をもとに、総合プログラムで「テーマリサーチ型ゼミナール」を受けるか、他専攻／インスティテュート他プログラムのゼミを受けて卒業論文を制作するか決めてください。

3 研究入門の学び方

(1) 研究入門とは

「研究入門」は、どの専攻・プログラムでも1回生から4回生のゼミ・卒業論文作成に至る4年間のカリキュラムの第一歩に位置付けられる重要な授業です。これまでも何度も述べましたが、総合プログラムでは人文学の多様な学修を通じて、複眼的・総合的な知識や視野を獲得することを目的としていますが、この「研究入門」では、その多様な人文学の学問的手法、誤解を恐れずに簡略化して言うと“物事に対する見方・考え方、アプローチの方法”を学びます。ここで誤解して欲しくないのは、研究入門で学ぶことはあくまで「考え方」であって、「知識の習得」は目的としていない、という点です。これが高校までの学習方法と大きく異なる点です。では、知識はどこで身に付けるかということですが、通常の専門科目の講義でもよいでしょうが、特に重要なのが本を読むことです。人文学の学問分野に属する図書は、それこそ星の数ほどありますが、まず1回生時で読んでおいて欲しい図書は推薦図書として「[5](#)参考文献」に記載しています。可能な限り読むようにしてください。大学では、特に幅広い分野を学ぶ総合プログラムでは、自主的な学修が肝要なのです。

(2) 研究入門の内容

「人文総合科学研究入門」は人文学全般を見渡し、それぞれの領域について、その考え方、アプローチを学ぶことを目的としています。このため、授業は5人の教員によるリレー講義形式を基本に進められます。また、人文学の5領域を総合的に理解するため、「総合ワークショップ」という授業形式も取り入れています。

さて、本題の研究入門の内容に入りましょう。総合プログラムの研究入門は「リレー講義」と「総合ワークショップ」の2つのパートに分かれています。これら2つのスケジュールは入り組んでいますので注意してください。

① リレー講義

総合プログラムの研究入門は、リレー講義が大きな部分を占めています。人文学を、「表現文化系：A領域」「文書史料系：B領域」「フィールドリサーチ系：C領域」「行動科学系：D領域」「メタ思考系：E領域」の5つの領域に分ち、各領域の担当者が4回ずつのリレー講義を行います。授業のおよその流れは次のようになります。

講義は人文学各領域のポイントを概観できるように工夫されており、各領域における課題や研究状況が紹介されます。人文学の「学び方」を理解することによって、人文学のいかなる領域にも通用し、21世紀に相応しい新たな領域を創出する基礎学力を身につけます。講義の前には、その領域の参考文献（オンラインシラバス参照）や推薦図書（「[5](#)参考文献」参照）などを前もって読んでおくことをお勧めします。ひとつの領域といってもその領域に含まれる学問分野は多様ですので、推薦図書とその領域の講義には直接的な関連性はないかもしれませんが、その領域の共通する学問手法を見出すための良い経験となるでしょう。

ひとつの領域のリレー講義が終了すると、必ずレポートが課されます。大学におけるレポートは、単に4回の講義を要領よくまとめた「ノートテイク」ではありません。講義で示された知見や考え方をもとに図書館などで自ら文献などにあたり、時にはフィールドワークを実施し、与えられたレポートのテーマに対して調査をもとにした自らの論理的な考え方や知見を示さなければなりません。レポートの書き方は、「[4](#)レポート・小論文の書き方」にありますので、必ずよく読んでおいてください。

② 総合ワークショップ

「総合ワークショップ」は5クラス合同で行うものと、クラスごとに行うものがあります。5クラス合同で行う「総合ワークショップ」では、現代に生きる人間にかかわるテーマを取り上げ、シンポジウム形式で5人の教員とみなさんとの討議を行います。

クラス単位で行う「総合ワークショップ」では、ひとつのテーマについて共同で研究し、意見を取りまとめ、発表します。各領域のリレー講義で培った知見をもとに総合プログラムにふさわしいテーマを選び、自らの意見を発信してください。大学での授業では、講義に出席し、その内容を理解することは、要求される作業の半分であるに過ぎません。大学では「受信」よりむしろ「発信」が要求されるのです。「発信」はリレー講義の領域ごとに課されるレポートもひとつの形態ですが、ワークショップのような場で成果を発表することも重要なひとつの形態です。また、個人単位ではなくグループで発表する場合には、グループ内の意見を取りまとめた

り、共同して調査したりする能力も求められます。これらのことは先生に指示されて行うことではありません。自ら必要と思われることを考えて、そして自ら動かないといけません。みなさんの積極的で自主的な活動を期待します。

4 レポート・小論文の書き方

文章を書く力は知の大きな柱です。私たちは書きながら考え、考えながら書きます。書くことと考えることはコインの裏表です。書くことで思考は鍛えられ、思考は現実のものとなります。総合プログラムでは書く力を育てることをとりわけ大切にしています。それは書く力が学ぶ力を支えているというだけでなく、卒業後、みなさんが社会の各分野で活躍するとき、大きな力となると考えるからです。

(1) レポートと小論文

レポートと小論文はどちらも大学では学習の一環として課される、あるいは試験に代えて達成度を測るために課される課題作文のことです。レポートと小論文についての明確な定義はありません。人によって同じ意味で使う人もいれば、区別して使う人もいます。

このようにその意味が明確でないのは、その成り立ちに原因がありそうです。「レポート」ということばは和製英語です。英語のreportはできごとや活動を説明した「報告」のことで、授業で提出する課題はpaperとよびます。ペーパーはある主題について実証的に論じたもので、学術論文の形式にのっとったものを指します。「小論文」は入試などで課される課題作文という意味で使われるようになったのがその始まりです。これはかなり最近、教育界で使われるようになったことばで、国語辞典にもまだ記載はありません。英語では授業で提出する課題作文のことをessayと言います。これはペーパーほど厳密ではないものの、ある主題について実証的に論述したものを指します。私たちが小論文とよぶものは英語のessayにほぼ相当します。

(2) 文章には目的がある

どのような文章にも目的があります。その目的は大きく、「読者を楽しませる」「読者を説得する」「読者に知識を伝える」という3つに分けることができます。物語や随筆などは文章を読むことそのものを楽しみがあります。これは読者を楽しませる目的で書かれたものです。広告や選挙公報の文章は読者になんらかの行動を起こさせる目的で書かれています。新聞や雑誌の記事、大学で教科書として読むような本は知識を伝えるのが目的です。また、知識を伝えながら説得するというふうに、複数の目的が重ねて使われる場合もあります。

レポートと小論文の目的は知識を伝えるところにあります。レポートも小論文も単に自分の思いを述べた作文ではないという点が大切なところです。文章がいかにおもしろくても、主張に熱がこもっていても、知識を伝えていなければレポート、小論文とはよべません。正しく、わかりやすく、切れ味鋭く知見を伝えるのがレポートと小論文の役目です。

(3) 新たな知見

レポート、小論文が伝える知識は新たな知見でなければなりません。私たちが文章を読むのはそこに新たな知見があるからです。「日本国憲法の大きな柱のひとつは平和主義だ」というのは私たち共通の知識です。しかし、このことをそのまま書いてもレポート、小論文とは言えません。だれもがすでに知っている内容をあらためて文章化しても、それを読もうとする人はいないでしょう。読者に読ませるためには、読者の目を開かせる新しい知見がなければなりません。たとえば、軍隊を持たないコスタリカの憲法と比べて論じれば、日本国憲法は世界的に先進的な内容をもつ憲法で、「その第9条は世界の人々から高く評価されている」という知見を展開できるでしょう。

この新たな知見というのは「大発見」がなければ小論文ではないという意味ではありません。小論文の小論文たるゆえんは、そこに小さくてもきらりと光る新しい知見があるということです。小さなことではあっても、そこから大きく広がる可能性をもった知見を探ることが大切です。

(4) 実証性

小論文が小論文として成立するためには、新たな知見のほかに実証性が必要です。実証性とは単なる思いつき、主観ではなく、証拠立てて、だれもが納得できるように論議をすることです。これは小論文と感想文を比べてみるとよくわかります。

感想文には実証性は求められません。映画を見ての感想、本を読んだ感想、旅行をしての感想、どれも人によって異なります。同じグループで旅行をして、その感想文を書けばみんな内容は違っているでしょう。明媚な風光に心動かされた人、その土地の食べ物に思い出を残した人、仲間とのおしゃべりが一番楽しかった人などさまざまです。そのうちのどの感想が正しかったのかと問うのは意味のないことです。感想は主観的であることがゆえに感想です。

これに対し、学術的なペーパーとよばれるものはその実証性が身上です。豊かな日本でホームレスとよばれる人々に代表されるように貧困に苦しむ人々が数多くいます。なぜ豊かな社会で貧困に苦しむ人々が存在するのか。それに対して、「家族制の崩壊が原因だ」「競争社会の悲劇だ」「怠け者だからだ」などと意見を言うことはできます。しかし、それは感想に過ぎません。ホームレスとよばれる人々は以前から存在したのか、いつから増えたのか、その背景は何だったのか。これは感想では解決できません。現代日本の社会構造の変化を緻密に調べ上げ、場合によればホームレスの人々に面談しながらその背景を突き止めていかなければなりません。つまり、実証によってあきらかにしていかなければなりません。この実証性こそが学術の身上です。

(5) 分野によって異なるアプローチ

人文科学は広い領域で、扱う対象が多岐にわたります。文献、史料をもとに研究を行う表現文化系、文書資料系であっても文献、史料の見方、扱い方には違いがあります。文学では文献に表れた表現、内容そのものが研究対象となるのに、歴史ではその裏にある事実を見ようとします。心理学、言語学のような行動科学系では数値化されたデータをもとにモデルを構成するという手法がよく使われます。一口に人文科学とは言っても、その手法には大きな違いがあります。

このため、人文科学においては実証性へのアプローチに大きな違いがみられます。表現文化系ではその研究手法のなかに「データ」ということばはあまり出てきません。行動科学系のアプローチには逆に「作品を読む」という言い方はまず出てきません。同じ学術の実証性を志向してはいても、そのアプローチには大きな違いがあるのです。ペーパーの書き方にも分野により違いがあります。言語という同じ分野について見ても、英語で書く場合には文学系では現代語協会というところが定めた書式で書きます。しかし、応用言語学系ではアメリカ心理学会が定めた書式で書くことが一般的です。このふたつの書式はペーパーの構成、書誌情報の記載など大きく異なっています。人文科学系それぞれの分野の教員の指導にしたがって書き方を学んでください。

(6) 良質の文章を読む

私たちの書く力は読む力を超えることはできません。一般に文章を書いた後はしばらく時間をおいて読み直し、推敲を行います。書く力より読む力の方が高いので、自分で書いた文章であっても、読んでみると、その欠陥がよく見えてきます。このため、書いた文章は自分が読者となって推敲できるのです。

書く力を高めるためには読む力を高めなければなりません。このためには良質の文章をたくさん読み、深く考える努力を重ねることが必要です。また、そこからわかりやすい、切れ味鋭い文章を書く秘訣を学ぶこともできます。文章の書き方についての本を読むことも勧められます。人文科学は広い領域の分野ですから、どの分野にも共通に使える解説書をあげるのはむずかしいことです。しかし、文章を書くということがどのようなことかを具体例で教えてくれる本として薦めたい本があります。井上ひさしほか『井上ひさしと141人の仲間たちの作文教室』（新潮文庫 いー14-29）は小さな文庫本ながら、作家、井上ひさし氏の知恵を凝縮して見せてくれる本です。

(7) 辞書を手元に

文章を書く場合には手元に辞書を置いておきます。これには漢字を正しく書くということだけでなく、もっと大切な意味があります。たとえば、みなさんは「右」をわかりやすく説明することはできますか。辞書はどのようなことばでも正確に、わかりやすく説明するために心血をそそいでいます。そこから、わかりやすい、切れ味鋭い表現を学ぶことができます。また、「古い」という意味を表す場合、どんな場合でも「古い」で間に合わせてしまうのではなく、その意味によって「古びた」「かび臭い」「年季の入った」「時代がかかった」「前時代的な」「古拙な」など

言い分けること大切です。これはどれだけ細かく対象を観察できるか、その人の力の表れです。辞書を使わずに文章を書くのは、嵐の海にボートでこぎ出そうとするのと同じ無謀なことです。船乗りが羅針盤を使って航路を定めたとように、私たちも辞書を羅針盤として文章を書くことを心がけましょう。

5 参考文献

総合プログラムにおいては、人文学全般の素養を身に付けることが求められます。ここで、人文学一般と総合プログラムA～E各領域の参考文献を挙げますので、1回生の間に少なくとも各領域2冊は読了してください。様々な分野の文献を読むということは、特にみなさんのように人文学という幅広い分野を研究する上で、非常に重要です。

《人文科学一般》

溪内謙『現代史を学ぶ』（岩波書店〈岩波新書〉、1995年）

1991年のソ連崩壊は、戦後日本の学問を支えたマルクス主義の権威失墜を決定的なものにした。とりわけ崩壊が予測できなかったソ連研究者たちへの影響は深刻であった。ソ連史の研究者である著者がこの激動の過程で、「歴史について」思索した副産物が本書である。歴史学に限らず、現代社会にあって学問することの意味を考えさせてくれる。テーマ・史料・文章化と、研究の進め方とそれがもつ意味も的確に記述されている。

須藤健一編『フィールドワークを歩く－文系研究者の知識と経験－』（嵯峨野書院、1996年）

本書は、基本的には文系分野でのフィールドワークの技術や知識に関する入門書である。もう少し具体的にいうと、本書では、日本の社会学、民俗学、文化人類学、文学、歴史学、考古学、言語学、人文地理学などの人文・社会科学系分野で活躍する38人の各々の国内外での代表的なフィールドワークの事例が、問題意識、目的、方法から研究結果を報告するまでの一連のプロセスを含めて、簡潔にまとめられている。これからフィールドワークに関心を持ち、フィールドワークを通じて資料を収集することを考えている人たちにはおおいに参考になるに違いない。

博報堂生活総合研究所『タウンウォッチング』（PHP研究書、1985年）

一昔以上前に書かれた本書であるが、後のトレンドを手っ取り早く理解するには、本書で指摘されていることも頷ける。肩が凝らずに読める。

月尾嘉男『情報化時代のビジネス領域』（日本放送出版協会〈NHKブックス〉、1987年）

時代を読みにくい「時代」である昨今、現実を冷静に整理してみるとある方向が見えてくる。そんな整理の仕方を読者に与えてくれる著書である。

陣内秀信『都市と人間』（岩波書店、1993年）

都市は、そこに人間が生活しているからこそ都市である。人間の生活は、歴史や風土など長い時間が醸成した土地があってこそ可能になる。これからの都市を考えるには、土地への十分な認識が必要となる。そんなことを考えさせられる著書である。

南風原朝和・市川伴一・下川晴彦編『心理学研究入門－調査・実験から実践まで－』（東京大学出版会、2001年）

調査研究、実験研究、実践研究それぞれの領域における研究方法について、詳細に解説している。

吉野源三郎『君たちはどう生きるか』（岩波新書）

見田宗介『宮沢賢治－存在の祭りの中へ－』（岩波現代文庫）

◆A分野（表現文化系）

人文科学に限らず、研究の理想的手法とはただ一つ、優れた問題提起と研究史におけるその意義の確認を端緒に、

徹底した客観的検証と分析を経て、誰もが納得できる結論（新発見）をできるだけ分かりやすく提示するという流れです。みなさんも大学生活を通じ、広く学界に寄与しうる研究テーマの発掘と新奇な結論を発表することが求められます。そうした研究の過程を追体験できる、モデルとなる参考文献をいくつか紹介します。

黒田日出男『謎とき・洛中洛外図』（岩波書店〈岩波新書〉、1996年）

この本からは、文学・史学・美術史学にまたがる多くの先行研究を十全に検討・評価し、それから新たな研究テーマを開拓、学問領域にこだわらない柔軟な姿勢で徹底して資料を検証し、誰もが首肯できる結論を提示する、という人文科学の理想的な研究手法を学ぶことができます。人文科学研究ジャンルの境界は一般に考えられているほど、堅固なものではなく、その越境は何ら特別なものではないことを気付かせてくれます。

佐竹昭広『下克上の文学』（筑摩書店〈ちくま学芸文庫〉、1993年）

日本文学研究に新風を巻き起こした古典的名著です。初出は1967年。それから35年を経た今も新鮮さは一向に失われません。徹底したテキストの読解と、倦むことのない作品への問いかけが、常識を覆し、新たな発見に繋がることを教えてくれる一書です。すでにやり尽くされたと考えられているテーマや作品でも、更に研究が深められる可能性は無限にあることを読者に語りかけ、勇気付けてくれます。

武者小路実篤『人生論』（岩波新書、1938）

人はどのように生きればよいのか、また生きるべきなのか。文学は人間にとってどのような指針を与えてくれるのか。ヒューマニスト武者小路が真摯に語ってくれる。

井上ひさし『自家製文章読本』（新潮文庫、1987）

日本語の面白さや魅力を近代の名文を紹介しながら解説してくれている。文学作品を深く読みたい方、文章が巧く成りたい方必読。

渡辺一夫『寛容について』（筑摩叢書、1972）

人間はどうしたら優しくなれるのか。優しくなるということが人間にとってどうして大切なことなのか。ユマニスト渡辺一夫が、寛容の精神を非寛容な態度や社会と比して論じてくれている。フランス文学研究者で、大江健三郎の指導教授であった著者の名随筆。

作田啓一『個人主義の運命』（岩波新書、1981）

近代の作家たちが自己とどのように向き合い、自己を律して行こうとしたか。作品の中で近代的自我がどのように描かれたか。日本近代文学を＜自我＞の視点から迫り、個人と社会の問題を鋭く抉った一書。

前田 愛『近代文学の女たち』（岩波書店・同時代ライブラリー）

大野 晋『古典を読む 源氏物語』（岩波書店・同時代ライブラリー）

◆B分野（文書史料系）

鹿野政直『歴史に学ぶこと』（岩波書店〈岩波高校生セミナー〉、1998年）

「なぜ歴史を学ぶのでしょうか。本当に大切なことは歴史をみる視点です。自分にとって歴史とは何か、その問いかけをもっていれば、歴史の見方が変わり、教科書だっけずっとおもしろくなります」（本書の扉より）。

中村哲編著『歴史はどう教えられているか—教科書の国際比較から—』（日本放送出版協会〈NHKブックス〉、1995年）

「本書は、おもに高校で歴史を教える現役の教師が、世界各国の歴史教科書を手がかりに、「歴史認識とは何か」「歴史教育はどうあるべきか」をみずから問うてきた、その回答である」（本書の扉より）。高校で「日本史」「世界史」が分かれていたことに疑問を感じたひと、あるいは、何の疑問も感じることがないひととは是非一読されたい。

近藤孝弘『国際歴史教科書対話：ヨーロッパにおける「過去」の再編』（中央公論社〈中公新書〉、1998年）

ヨーロッパで行われている歴史教科書を通じた国民国家間の対話を紹介したこの著作を通じて、国民史的な歴史および歴史教育の意味を考える。

イアン・ブルマ著、石井信平訳『戦争の記憶；日本人とドイツ人』（TBSブリタニカ、1994年）

日本とドイツの戦争犯罪に関する戦後処理問題を扱ったこの著作を通して、過去を記憶することの意味、国際化された社会の中で歴史を理解することの意味を考える。

高橋哲哉『戦後責任論』（講談社、1999年）

近年、特に戦後50周年を境に、戦争責任問題で活発な議論が展開されているが、この著作を通してこの問題の意味を探る。

溪内 謙『現代史を学ぶ』（岩波新書）

成田龍一著『「歴史」はいかに語られるか』（NHKブックス、2001）

◆C分野（フィールドリサーチ系）

市川健夫『フィールドワーク入門―地域調査のすすめ―』（古今書院、1985年）

「景観を観察するだけで、様々な地域の実像を認識できる手法を体得できる」地理学のおもしろさを平易に解説していて読みやすい。

ピーター・ゲールド著、杉浦・二神／矢野・立岡・水野訳『現代地理学のフロンティア（上）／（下）』（地人書房、1989／1994年）

地理学とは何か？という素朴かつ本質的な疑問を誰もが持つことであろう。その答えを探すには、これら2冊の本を通読されることを薦めたい。本書は、多様な研究対象・方法を有する地理学について、主に1950～60年代以降に展開した計量革命後の研究トピックをわかりやすく紹介した入門書である。地理学以外の人を対象に書かれた書物でもあるので、あまり関心のない人にもお勧めである。

川口慧海著、高山龍三校訂『チベット旅行記』（1904年。講談社〈講談社学術文庫〉、1978年）

本書の筆者である川口慧海は、明治時代、東京の五百羅漢寺の僧であった。彼は、大蔵経の原典を求めて単独で、それも徒歩でインドから鎖国中のネパールを経て、目的地のチベットに至った。本書には、旅の過程で見聞したことがたいへん客観的にまとめられている。本書は民族誌としてもひじょうに高い評価を得ているが、フィールドワークを志す人たちには、川口慧海の意志の強さや真摯な態度をおおいに参考にしてほしいものである。

藤巻正己編『生活世界としての「スラム」―外部者の言説・住民の肉声―』（古今書院、2001年）

本書は、文化人類学者、人文地理学者、社会学者、都市計画学者らが各人のフィールドとする国内外のスラム地域でのフィールドワークで収集した施慧要をもとに、外部者が抱いてきたスラム像を再考し、同時にスラム住民の生活の実像を描き出そうとしたものである。本書を通じて、とくに発展途上国（南の世界）で拡大しつつある貧困層・スラムの実像を理解するだけでなく、多様なフィールドワークの仕方をも学べるに違いない。

◆D分野（行動科学系）

町田 健『言語学が好きになる本』（研究社、1999年）

言語学に楽しく入っていけるように、日常のことばに関する素朴な疑問に答えながら解説した本。

町田 健『生成文法がわかる本』（研究社、2000年）

日本語や英語といった違いを超えた、人間の言語一般にあてはまる文法は何か。このような一見難しい問題を、肩のこらない調子で解説した本。理論好きな人向きだが、高校までの英語の知識があれば理解できる。

梶山洋介『認知意味論のしくみ』（研究社、2002年）

ことばがどういうときにどういう意味で使われるかに興味のある人向き。

町田 健『日本語のしくみがわかる本』（研究社、2000年）

高校まで教わってきた、国語の時間の文法がおもしろくなかった人でも興味が湧くように書かれている。日本語を母体とする私たちが、いかに文法を無意識に使ってしゃべっているかが実感できる。

中島平三『発見の興奮—言語学との出会い—』（大修館書店、1995年）

学生時代に自分のやりたいことを模索していた著者が、どのようにして言語学に出会い、学問に対する楽しさや知的興奮を体験していったかを述べた本。学者がどうして学問などに夢中になるのか、ことばの問題を通して教えてくれる。

吉村浩一編『特殊事例がひらく心の世界』（ナカニシヤ、1996年）

様々な関心をひく事例をとおして、その背景にある心理学的な概念、理論に着いてわかりやすく解説している。

鹿取廣人・杉本敏夫編『心理学』（東京大学出版会、1996年）

遺伝と環境、学習・記憶、動機付け・情動、感覚・知覚、思考・言語、個人差、社会行動、発達等の心理学領域全般について概説している。

川瀬正裕・松本真理子・川瀬三弥子『これからの心の援助』（ナカニシヤ、2001年）

心理学の一領域である臨床心理学についての入門書。対象者に対する援助の基本的姿勢、基礎知識、援助の実際、援助の技法について、具体的に解説している。

鈴木孝夫『日本人はなぜ英語ができないか』（岩波新書）

大野 晋『日本語の教室』（岩波新書）

◆E分野（メタ思考系）

トマス・ネーゲル著『哲学ってどんなこと？』（昭和堂、1993年）

はじめて哲学の書物に接する人は、見慣れない用語や独特の言い回しにとまどうことが多い。本書は、そういう特別なことばづかいを一切せずに、哲学の中心問題を読者自身が考えられるようにする、すぐれた道案内。

野田又夫『デカルト』（岩波書店〈岩波新書〉、1966年）

日本のデカルト研究を指導してきた著者が、NHKの連続講座で語った内容にもとづく。デカルト哲学の概説としてこの著者ならではのものであると同時に、現代人が古典との対話をつうじて自らの哲学を形成する一つのあり方を示す。

岡崎・日下部他著『西洋哲学史—理性の運命と可能性—』（昭和堂、1994年）

E分野の授業では、2600年の哲学思想の流れをふまえた上で、現代の国際世界の底流をなす思想状況がどのようなものであるかを教示したいと考えている。本書はギリシアから現代のポスト・モダンまでの哲学を俯瞰している。現代の国際世界を根底において規定している哲学を歴史をふまえて理解する上で、本書は最良の導きとなろう。

ヨースタイン・ゴルデル（須田朗監修／池田香代子訳）『ソフィーの世界—哲学者からの不思議な手紙—』（NHK出版）

丸山真男『日本の思想』（岩波新書）

岡本太郎『今日の芸術』（光文社文庫）

6 テーマリサーチ型ゼミナールで卒業論文（非卒業論文形式含む）を提出するには

総合プログラム所属の学生はテーマリサーチ型ゼミナールで卒業論文（非卒業論文形式含む）を提出することとなります。提出に関する詳細は以下を参照してください。

1) テーマリサーチ型ゼミナールとは

テーマリサーチ型ゼミナールは、2003年度からスタートした、文学部が擁する従来の枠組みでは捉えきれない人文学のあらたな分野やテーマ、アプローチを、ゼミ形式で大胆に実践していく、まったく新しい形態のゼミナールです。21世紀の「知」のグローバル化を目指して、人文学に共通する普遍的なテーマ、特定地域を多面的にリサーチしうるテーマ、現在進行形のタイムリーなテーマ、新世紀の社会に直結する実践、実習的テーマなど、現代社会が人文学に求める革新的テーマを設定します。また、テーマリサーチ型ゼミナールでは革新的・斬新なテーマを追求するためにも、常にゼミテーマを見つめ直しています。

3回生のゼミ選択の際には、卒業時（4回生）にどのようなテーマで研究をし、卒業論文執筆をしたいかといった事を考え、ゼミを選択します。その際、自専攻のゼミ、テーマリサーチ型ゼミナールといった選択肢の中で自分に適するゼミを選んでください。

テーマリサーチ型ゼミナールでどのようなテーマのゼミが開講されているのかはシラバスで確認をして頂きたいと思いますが、以下に2005年度、3回生ゼミのいくつかを記しますので是非参考にしてください。

2005年度 3回生ゼミテーマ 例)

他者問題と文化理解、文化としての「移動」2、京都から発信する京都文化学、辞書をつくる、ECOTOURISM エコロジーの旅2

2) テーマリサーチ型ゼミナールで卒業論文（非卒業論文形式含む）を提出するには

テーマリサーチ型ゼミナール受講学生の皆さんは、従来のような卒業論文提出の形態（卒論形式）もあり得ますが、クラスによっては、そこで制作する卒業論文は従来の専攻のような論文形態によらず、共同で成果物（本の出版等）を仕上げてこれを卒業論文とすることができるといった形態（非卒論形式）も認められています。提出期日・提出先・提出方法については、卒論形式か非卒論形式かによって取り扱いが異なります。必ずクラス内で担当教員に、いずれの形式なのかを確認してから作成してください。※卒論形式・非卒論形式いずれの場合も「卒業論文・卒業制作テーマ届」（←卒論形式・非卒論形式共通）は全員提出してください。

「卒業論文・卒業制作テーマ届」事務室提出締め切り：10月6日（木）午後5時まで

テーマ届変更期間：11月28日（月）～12月5日（月）

3) 体裁について

卒論形式で制作の場合	文書体裁	字数・書式・用紙の大きさなどはクラス担当者の指示に従うこと
	表紙等に関する体裁	題目、学生証番号、氏名を必ず記載すること
	その他注意	1. 学生本人のみの執筆による単著であること。共同執筆の類は該当しない。 2. 主査・副査の発表・口頭試問日程等は担当者の指示に従ってください 3. 提出締め切り等の詳細は「テーマリサーチ型ゼミナール・卒論形式で提出する方」を参照してください。
非卒論形式で制作の場合	文書・表紙体裁	体裁については全てクラス担当者の指示に従うこと
	その他注意	1. 制作物（成果物）の提出が不要の場合であっても卒業論文・卒業制作テーマ届を所定の期日までに文学部事務室へ提出してください。 2. 制作物（成果物）の提出が必要な場合、提出期日・提出先・提出方法などは担当教員の指示に従ってください。 3. 口頭試問に相当するものとして、「卒業制作発表会（仮）」を実施することがあります。実施日については、担当教員の指示に従ってください。

4) テーマリサーチ型ゼミナール卒論形式で提出をされる方の提出について

◆「2005年度卒業論文」の提出締切期限は、

12月20日(火)午後5時とします。＜時間厳守＞

- ※ 提出の際は、学生証が必要です。
- ※ 必ず本人が持参してください。事前許可なしで代理提出はできません。
- ※ 締切時間は厳守してください。遅延提出は一切認められません。
- ※ 卒業論文の提出の形式が整っていないと受理できないケースもありますので、万端に準備してください。
- ※ 単なる体調不良や交通機関の延着・機器等の故障・勤務の都合等の理由での提出遅延は、認められません。余裕を持って提出できるように心がけてください。
- ※ 予測不可能かつ緊急の事態などで、どうしても締め切り前の提出が困難になった場合、**自分で判断せず、必ず事前に文学部事務室に一報してください。**事前連絡・相談があったケースに関してのみ、本人申請書・証明書類を提出の上、教授会の審議を受けた上で提出の延期を許可する場合があります。(全てが許可されるとは限りません。)事前連絡と必要な書類手続の両方が満たされていることが大前提です。事前の連絡がない場合は、事後の対応が不可能になります。

◇「卒業論文」の提出前に、「卒業論文・卒業制作テーマ届」を文学部事務室に提出することが必要です。「卒業論文・卒業制作テーマ届」の提出締め切り期限は、

10月6日(木)午後5時とします。

◆論文審査の主査・副査の発表は、10月下旬から11月上旬とします。日程・方法は授業内で指示します。

◇口頭試問の日程は、基本的に1月下旬から2月中旬に行う予定です。個人別の日時は、授業内にて担当教員の指示に従って下さい。

- ※ 卒業旅行の日程は、口頭試問を避けてください。

◆卒業論文の形式は、各専攻・プログラムにより異なりますが、以下の形式は共通ですので、必ず守ってください。

- ① 卒業論文は、添付資料なども含め、必ず**2部**提出してください。
- ② 表紙に論題、氏名、学生証番号などを記載してください。

2005年度卒業論文 「〇〇 (論題)」 学生証番号、氏名

- ③ 論題は、事務室に提出した「卒業論文・卒業制作テーマ届」と全く同一でなければなりません。卒業論文作成中に論題の変更が必要となれば、主査・副査の変更がないか必ず指導教員に確認した上で、事務室で届変更の手続きを行ってください。テーマ自体が変わるなど、大きな変更は認められません。
- ④ 主査・副査の名前を記した紙(シールになっています)を、おもて表紙の裏側に貼り付けてください(2部とも)。「主査・副査シール」は文学部事務室で配付しています。主査・副査は10月下旬から11月上旬に担当教員から指示があります。
- ⑤ 体裁については担当の指示に従って作成してください。
体裁については、担当が点検します。したがって、窓口・提出会場で受け付けられた論文でも、担当者の所で体裁上の不備が発見された場合は、口頭試問の時点でF評価となることがありますので、注意してください。

2005年度後期 卒業論文に関する日程

日程	内容
10月6日（木）午後5時まで	「卒業論文・卒業制作テーマ届」事務室提出締め切り
10月下旬～11月上旬	主査・副査発表（担当教員による指示）
11月28日（月）～12月5日（月）	題目変更期間
12月13日（火）	卒業論文受付開始
12月20日（火）午後5時まで	卒業論文提出締め切り ＜時間厳守＞
1月中旬頃	口頭試問日程発表（担当教員による指示）
1月下旬～2月中旬	口頭試問実施

◎5回生以上の学生で、前期に卒業論文を提出する方の日程

日 程	内 容
4月28日（木）午後5時まで	「卒業論文・卒業制作テーマ届」事務室提出締め切り
7月1日（金）～7月8日（金）	題目変更期間
7月13日（水）	卒業論文受付開始
7月20日（水）午後5時まで	卒業論文提出締め切り ＜時間厳守＞
7月下旬～8月	口頭試問はこの間に実施します。日程は各担当教員に確認してください。



科 目 一 覽

専門科目 人文総合科学インスティテュート 総合プログラム

総合プログラム1～4回生

分野	科目名	配当回生
概説	* 人文総合科学概説Ⅰ・Ⅱ（各2）	2
講読	* 英書講読入門Ⅰ・Ⅱ（各2）	1のみ
	# 人文総合科学外書講読Ⅰ・Ⅱ（各2）	2
	# 人文総合科学外書講読Ⅲ・Ⅳ（各2）	3
小集団	* 人文総合科学研究入門（4）	1のみ（通年）
	人文総合科学基礎講読Ⅰ・Ⅱ（各2）	2のみ
	# ゼミナールⅠ（テーマリサーチ）（4）	3のみ（通年）
	# ゼミナールⅡ（テーマリサーチ）（4）	4（通年）
	* 卒業論文（4）	4（通年）

1. 科目名のカッコ内数字は単位数を示します。
2. *のついた科目は、人文総合科学インスティテュート学生のみが受講できます。
3. #のついた科目は、重複受講ができます。
4. 下線のついた科目は、その回生でしか受講できません。

【総合プログラムで卒業する場合の必修科目・登録必修科目】

必修科目（卒業するために必ず単位を取得しなければならない科目）

①	ゼミナールⅡ（テーマリサーチ）（4回生以上）	4単位必修
②	卒業論文（4回生以上）	4単位必修

登録必修科目（必ず登録・受講しなければならない科目）

③	リテラシー入門（1回生のみ）	1科目4単位（教養科目）
④	英書講読入門Ⅰ・Ⅱ（1回生のみ）	2科目4単位
⑤	人文総合科学情報処理Ⅰ・Ⅱ（2回生のみ）	2科目4単位（教養科目）
⑥	人文総合科学概説Ⅱ（2回生以上）	1科目2単位
⑦	人文総合科学研究入門（1回生のみ）	4単位
⑧	人文総合科学外書講読Ⅰ・Ⅱ（2回生以上）	2科目4単位
⑨	人文総合科学基礎講読Ⅰ・Ⅱ（2回生のみ）	2科目4単位
⑩	外国文化講読（第一外国語）（3回生以上）	1科目4単位（人文科学総合講座）
⑪	ゼミナールⅠ（テーマリサーチ）（3回生のみ）	1科目4単位

※ 3回生時に他専攻へ移動する場合でも、③～⑨の登録必修は必ず受講しなければなりません。

1 回 生

1. 下記の科目は、クラス指定を行っています。指定されたクラスの授業コードを受講登録OCR用紙に記入し、本登録してください。

- ①外国語科目（第1・第2）⇒クラスは掲示にて発表します。
- ②リテラシー入門⇒クラスは掲示にて発表します。
- ③人文総合科学研究入門⇒クラスは掲示にて発表します。
- ④英書講読入門Ⅰ・Ⅱ⇒クラスは掲示にて発表します。

2 回 生

1. 下記の科目は、クラス指定を行っています。指定されたクラスを本登録してください。

- ①初修外国語・応用⇒第1外国語として初修外国語を選択したみなさんが履修します。クラスは掲示にて発表します。

英 語Ⅶ・Ⅷ⇒第1外国語として英語を選択したみなさんが履修します。1回生終了時に希望調査が行われ、4月時にクラスが発表されます。

- ②人文総合科学基礎講読Ⅰ・Ⅱ⇒クラスは掲示にて発表します。
- ③人文総合科学情報処理Ⅰ・Ⅱ⇒クラスは掲示にて発表します。

2. 下記の科目は予備登録科目です。指定された日に予備登録を行ってください。（「履修要項」を参照）予備登録の結果決定したクラスを必ず本登録してください。

- ①人文総合科学外書講読Ⅰ・Ⅱ

3 回 生

* 3回生以降も総合Pで継続履修する学生のみ参照してください。他専攻へ進級した学生は異動後の専攻の手引きに従って履修を進めることとなります。

下記の科目は予備登録科目です。指定された日に予備登録を行ってください。（「履修要項」を参照）予備登録の結果決定したクラスを必ず本登録してください。

- ①ゼミナールⅠ（テーマリサーチ）⇒すでに前年度中に予備登録を済ませ、許可を受けたクラスを本登録してください。
- ②外国文化講読（第一外国語と同じ語種）

4 回 生

* 3回生以降も総合Pで継続履修する学生のみ参照してください。他専攻へ進級した学生は異動後の専攻の手引きに従って履修を進めることとなります。

1. 下記の科目は本年度の登録で卒業の見込みが出る方のみが受講できます。決定したクラスを本登録してください。

- ①ゼミナールⅡ（テーマリサーチ）⇒すでに前年度中に予備登録を済ませ、許可を受けたクラスを本登録してください。
- ②卒業論文⇒卒論ゼミと同一のクラスを登録してください。

2. 下記の科目は本年度の登録で資格取得の見込みが出るかのみが受講できます。

- ①（教）教育実習⇒総合演習と同一のクラスを登録してください。
- ②（芸）博物館実習



学修を進めるにあたって

1 文献資料室と共同研究室

文学部には、教員・学生・院生の研究・学修の場として共同研究室と人文系文献資料室が設けられています。文学部教学の大きな目標である専門的知識・技能の養成や、自主的・集団的な学修・研究の充実のために、この二つの場が大きな役割を果たしています。

〈人文系文献資料室〉

修学館地階にある文献資料室には、主に文学部の学問・研究に関する専門図書、学会や大学が発行する学術雑誌、各種の資料（歴史学関係の史料を含む）、辞典、図録などが集中的に保管されています。それぞれの専攻・コースやインスティテュートに関する専門図書や資料などは、それぞれの専攻が重点をおいてきた専門分野や取書の方針によって特色をもつものとなっていますが、その中でも特に線装本など貴重な図書や、『立命館文学』との交換で寄贈された学術雑誌など、二度と取書することが至難なものについては、別置されています。しかし大部分の図書は開架閲覧方式がとられていて、書庫に入って図書を検索し、閲覧することができます。文献資料室の書庫は下記のとおり、各専攻関係の図書は次のように配置されています。

書庫A 日本文学・日本史・中国文学・東洋史・製本和雑誌（大学・一般）

書庫B キング・サイズなどの大型資料類

書庫C 漢籍・埋蔵文化財・未製本カレント・明大本・和装本など ※書庫Cの図書は閉架請求制です。

書庫D 哲学・心理学・英米文学

書庫E 西洋史・地理学・文化人類学・インスティテュート・地方史・中国雑誌・洋雑誌

研究内容が部分的に重なり、隣接分野となっている専攻間の図書・資料を相互に利用しやすいよう同一書庫に配置しています。それによって広い基礎をもち水準の高い学修研究の発展と、新しい研究課題の発見をが期待できるでしょう。

人文系文献資料室の図書は、全体として専門性の高いものが多く、したがって低回生にとって直接利用できる図書は少なく、広い教養を身につけるための啓蒙書、文学作品、一般の雑誌などについては、中央図書館の利用が望まれます。しかし上回生のレポート作成や卒業論文、修士論文の作成にあたっては、人文系文献資料室に収められた図書の利用が必要となる場合があります。所定の申し込みをすれば、開架閲覧を許していない貴重図書・学術雑誌の閲覧も可能です。

〈専攻・インスティテュート共同研究室〉

専攻院生・学生が教員とともに、専攻の学問研究について自主的な共同研究をおこなう場として10専攻およびインスティテュートそれぞれに共同研究室が設けられています。それぞれ違いがありますが、専攻・インスティテュートの教学にとって基本的な辞典などの図書、また演習・講読などのテーマと直接かわりのある専門図書などが置かれています。実験実習的な研究教育が重視されている心理学・地理学・日本史学専攻の考古学コースでは、機器・用具類も充実しており、専用の実験・実習室施設もあります。

これら共同研究室は、大学の休業日（土曜日・日曜日・祝日・夏期の一斉休業日、年末年始など）、および授業や卒業論文・修士論文の試問審査など、文学部の教務・事務にかかわって使用制限する場合を除いて、原則として毎日午前9時から午後9時30分まで利用できます。ただし、実際の時間は、専攻によって異なっていますので、各専攻の規定に従ってください。共同研究室の運営や利用の仕方および、日常的な運営については、教員・学生・院生の三者で協議することにしており、相互に円滑で節度のある使用を心がけねばなりません。

2 クラスロッカーの使用法について

（1）クラスロッカーについて

クラスロッカーは、研究入門、基礎講読、講読演習、演習などのクラス単位に必要なものを、一時的に保管しておくものです。例えば、研究入門の講義時に欠席者用レジュメなどを保管したりするために利用するものです。したがって、個人用の荷物を保管するようなことは禁止をしています。また、基本的に、カギをしめないで使用していただきますので、紛失しては困るものなどは収納しないようにしてください。

(2) 使用の手順

1. 文学部事務室へ、クラス単位であらかじめ利用の申請し、使用するロッカーの場所を決めます。

申請は随時受け付けますので、必要がある場合は、文学部事務室で手続きして下さい。

※オリエンテーション期間の「オリター懇談会」で選出する「クラス代表者」が、クラスを代表して手続きをするようにしてください。

2. 使用できる期間内は、必ず指定のロッカーを使用し、クラス単位で管理してください。
3. 使用期限が来れば、クラス単位で荷物の撤収を行ってください。

(3) 注意事項

利用上以下の点に注意して下さい。

- ①クラスロッカーは、事前の申請に基づいてクラス番号を付番し、クラス指定しますので、確認して下さい。
クラスロッカーは1クラス1ロッカーではありません。
- ②ロッカーは整理整頓に心がけて下さい。複数クラスで利用をお願いした場合、必ず物品のクラス間違いがないようにして下さい。
- ③物置ではありませんから、ロッカーに保管するのにふさわしくないものは入れないで下さい。また、施錠しませんので、貴重品など紛失しては困るものは入れないで下さい。
- ④万一紛失・盗難にあった場合、大学は責任を負いませんので注意して下さい。
- ⑤サークルなどの団体が無断で使用した場合は、速やかに撤去します。
- ⑥クラスロッカーの利用期限は、翌年3月15日（休日の場合はその前日）までです。ロッカーにはいつている物はすべて各クラスの責任で移動して下さい。翌年3月16日以降は、文学部事務室の責任で物品の廃棄をおこないます。

3 セミナーハウスの正課用利用の手引き

(1) セミナーハウスについて

立命館大学では、正課・課外活動などで活用して、多様な学生生活を通じて得られる「学びと成長」を支援する施設として、セミナーハウスがあります。ここでは簡単に紹介します。ぜひ各クラスで積極的に利用して下さい。

なお、今年の4月から6月にかけて、新入生のクラスとして合宿をする場合は、別途の手続きになりますので、(5)の説明を参照して下さい。

1. 衣笠セミナーハウス（立命館大学より徒歩5分）

- ①衣笠キャンパスに隣接したアカデメイア立命21の中にあり、洋室の会議室と宿泊室および和室の会議室兼宿泊室を擁し、宿泊できる人数は最大で150名の収容力を持つ施設です。
- ②国際平和ミュージアムも併設していますので、見学を兼ねてご利用ください。（併設施設は学生証提示で無料）

2. エポック立命21（びわこ・くさつキャンパス内）

- ①BKICにもセミナーハウスがあります。

(2) 施設の利用料金

正課で利用する場合は、宿泊料は無料となります。なお、正課以外でも担当教員の承認印を得ればクラス単位で利用する時は小集団クラス援助金で利用できます。

(3) 施設の予約方法

利用にあたってはまず利用したいセミナーハウスに電話にて予約をしてください。利用日の3カ月前から1週間前（なるべく2週間前）までに、直接電話で利用期間・人数等を申請し、予約をしてください。（退館時に次回予約日の予約もできます）予約後の手続き等は、衣笠学生センター（研心館2階）に必要な書類がありますので、ご確認ください。

衣笠セミナーハウス：075-465-8110 エポック立命21：077-561-2700

(4) その他

正課以外で利用する場合は、宿泊料が必要です。詳しくは衣笠学生センターにてご相談ください。

(5) 新入生クラス合宿の手続きについて

4月から6月にかけては、クラス、ゼミが集中的に利用する可能性があるため、あらかじめ、学部枠が設けられています。新入生クラスが、クラス合宿を行いたい場合は、この「学部枠」内で優先的に予約することになります。この期間にクラス合宿を行いたいクラスの代表者は、文学部事務室学生係にご相談ください。

4 学生印刷室の利用について

(1) 利用方法の説明

各小集団クラスでは、正課授業時に利用するレジュメ印刷の際に、学生印刷室に設置されている輪転機を利用することができます。輪転機は原稿1枚につき、10部以上の印刷をするときに利用できます。なお、原稿を作成する際にはB4もしくはA4にしてください。

- ①文学部事務室前にある「小集団クラス印刷申請書」に必要事項を記載し文学部事務室窓口申請して下さい。
(事前に小集団クラス担当者許可印が必要です。)
- ②記入された「小集団クラス印刷申請書」と「学生証」を窓口提出して下さい。窓口設置されている受付台帳に記載した後、学生証と引き換えに「印刷機の鍵」をお渡しします。
- ③輪転機は、清心館1階 学生談話室東北角の学生印刷室内にあります。
- ④印刷用紙は、文学部事務室内東側にあります。申請した枚数をもって、印刷して下さい。(印刷に失敗する場合がありますので、若干余分に持って行ってください。学生印刷室内には、コピー機用の用紙が用意されていますが、これはコピー専用ですので、輪転機での印刷には、絶対に利用しないで下さい。)
- ⑤輪転機の利用方法は、学生印刷室内の掲示を確認してください。
- ⑥輪転機の使用が終了したら、速やかに「鍵」を事務室窓口まで返却して下さい。引き換えに学生証を返却します。(未使用の印刷用紙は、事務室内東側の位置に戻してください。)

(2) 「学生印刷室」の利用時間帯

1. 印刷は以下の時間帯で使用するようにして下さい。終了時間には必ず印刷が終了するようにして下さい。

授業日の 9:00~21:30

※窓口時間等は変更する場合がありますので、掲示等注意して下さい。

(3) 利用にあたっての諸注意

- ①鍵は他人に貸し出さないで下さい。また、他人の学生証でカギを貸すことはできません。
- ②「学生印刷室」は印刷物を散らかさないよう、整理整頓に心がけてください。
- ③輪転機が故障したら、機械を無理に操作せずに、事務室まで連絡してください。
- ④不正使用は絶対に行わないで下さい。もし不正利用が判明した場合、所属クラスの輪転機利用禁止、利用代請求などを行います。
- ⑤学生印刷室内には、コピー機用の用紙が用意されていますが、これはコピー専用ですので、輪転機での印刷には、絶対に利用しないで下さい。不正に利用したことが発見された場合は、賠償していただきます。

5 自主ゼミ援助制度について

(1) 自主ゼミ制度について

授業で学んだことをさらに発展させ、その研究成果をまとめていくため、学部内のメンバーで組織された学習グループ（自主ゼミ）に対して、施設貸与や資料作成の費用を援助する制度です。

(2) 参加資格

文学部生・文学研究科生の登録が可能です。他学部・聴講生・科目等履修生・卒業生は登録できません。

(3) 援助内容

1. 経済援助 生協で利用できるコピーカード 1,000円分
2. 施設貸与援助 学習会・研究会のための施設貸与および自治会輪転機使用（用紙は各自で準備）
3. 自主ゼミ用掲示板の使用 清心館 1Fにある自主ゼミ用掲示板を使用することができます。

(4) 受付期間・受付方法

登録の受付は、年2回、4月と10月に文学部事務室または文学部自治会（清心館 1F）にて行います。

登録手続きの詳細については、別途掲示にてお知らせします。（4月上旬および9月中旬に掲示予定です）

(5) その他

自主ゼミ活動についてはセメスター単位で登録を受け付けます。また、活動終了時に、活動実績・成果を報告してもらいます。

6 「小集団教育推進補助費」の取り扱いについて

(1) 「小集団教育推進補助費」の目的とその適用の範囲について

各小集団クラスにおける学生の自発的・集団的学習、研究活動を行うために必要な以下の目的について補助を行います。「小集団教育補助費」では下記の例のような使用が可能です。その執行については、各小集団において会計担当者を決めて文学部事務室に届け出て下さい。会計担当者には「クラス資料費伝票」を交付しますので、会計担当者が責任をもって管理・執行するようにしてください。

- ①生協発行のコピーカード（1回の購入限度額5,000円、1クラス15,000円まで）
- ②クラス共通のフロッピーディスク（1クラス2,500円まで）
- ③クラス教材用VTRテープ（1クラス2,500円まで）

※その他会計担当者に配布する「小集団教育推進補助費利用の手引」等を参照してください。

(2) 補助額

1クラスにつき年額15,000円です。

(3) 適用期間

毎年4月伝票交付日～翌年2月末まで利用できます。

(4) 使用の流れについて

各クラスで、クラス代表者とともに、「クラス会計」担当者2名を選出してください。

（1回生は、オリエンテーション期間の「オリター懇談会」において選出してください。）



クラス責任者は、事務室が主催する説明会に参加してください。

（説明は、文学部自治会が招集するクラス代表者会議（仮称）を通じて行います。連絡があった場合には、必ず参加するようにしてください。なお、その際には、印鑑を持参の上参加してください。）



「伝票」を交付します。

本学生協（中川会館地下1階）にて物品等の購入ができます。使用方法は、会計担当者に配布する「小集団教育推進補助費利用の手引」および「伝票」の裏書を参照してください。1クラス年間15,000円まで使用できます。使用期間は「伝票」交付日から翌年2月末までになります。伝票をなくした場合は、事務室に申し出てください。



「伝票」を返還します。

使用期限（翌年2月末日）を満了した場合は3月15日（休日の場合はその前日）までに、全額（15,000円）を使用した場合は、直ちに「伝票」を事務室に返還してください。

7 清心館「学生談話室」の利用について

清心館の一階に「学生談話室」があります。これは、学生の交流・休憩、クラス活動、自習等を行うための施設であり、文学部が「学生談話室利用申し合わせ」に基づいて文学部自治会と共同管理しつつ、日常的な運営を学生の自治に委ねています。利用者が相互に譲り合って、気持ちよく利用できるように努めてください。

1. 「学生談話室」は全面禁煙です。
2. 紙コップや空き缶などゴミは必ずゴミ箱へ捨てるようにしてください。
3. 椅子や机などを勝手に動かしたり、汚損したりしないようにしてください。
4. 「学生談話室」を利用して行事や情宣活動を行うことは許可制です。利用を希望する団体は、文学部自治会に相談の上、文学部事務室の許可を得てください。なお、許可された場合も「学生談話室利用申し合わせ」を遵守して利用するようにしてください。

8 立命館大学人文学会

立命館大学人文学会は、立命館大学文学部における学問研究の発展・深化と普及を目的として、文学部の教員・院生・学生によって構成された学会です。

当学会の活動は、1934（昭和9）年『立命館文學』の創刊に始まっています。この『立命館文學』は、斯界の評価も高く、月刊にて定期的に発刊されていましたが、戦争の拡大するなか、1940（昭和15）年10月には、ついに第60号の刊行をもって一時中断のやむなきにいたりしました。しかし戦後間もない混乱期の1947（昭和22）年7月には、早くも『立命館文學』第61号の刊行を再開し、今日にいたっています。

1952（昭和27）年1月に、学会は立命館大学「人文学会」として正式に発足。会則を制定しました。1969（昭和44）年には、新たに学生部会が発足し、更に充実した学会に発展しました。

『立命館文學』の発行は、2005（平成17）年3月現在で、第589号に及んでいます。

人文学会の主要な活動は、『立命館文學』の刊行と教員・学生の研究・学修の助成におかれています。『立命館文學』に掲載された研究論文は、専任教員の論文をはじめ、学部学生の卒業論文のタイトルや院生の修士論文の概要、及び院生のおこなった書評や学界動向の紹介、さらには卒業生や非常勤講師の研究論文も数多く掲載されています。発表された研究論文の内容は、わが国の各分野の学界において高い評価をうけているものが多く、『立命館文學』の学会誌としての水準の高さを示しています。

『立命館文學』に掲載されている研究論文や、修士論文・卒業論文・博士論文（概要紹介）・書評・学会動向などは、教員の講義・演習に生かされ、また学生のグループ研究・個人研究の参考に供されていますが、今後ますますひろく活用されることを期待しています。

「人文学会」はまた院生・学生の自主的研究の助成をも目的としており、そのための事業として、学生部会による研究誌の発行、あるいは公開講演会の開催なども行なっています。学生諸君は人文学会委員を選出し、それを通じて学会運営に参加することとなっています。みなさんが学会活動に深い関心を持ち、積極的に参加されることをつよく望みます。

9 文学部事務室について

(1) 文学部事務室とは

文学部事務室は、文学部の学生のみなさんが必要な手続きをおこなったり、必要な提出物を提出する等、事務手続を行う窓口であるほか、試験や授業に関する連絡を行ったり、履修・進路・留学などの相談に応じる窓口でもあります。なお、電話での対応は、基本的に行っておりませんので、直接の来室、または、メールによる相談をお願いします。

- ◎ 学生印刷室にある輪転機を使用したいとき（学生証が必要です）
- ◎ 各専攻・プログラムの共同研究室を利用したいとき（学生証が必要です）
- ◎ 学割・証明書の発行（可能な限り、証明書自動発行機で購入してください。）
- ◎ 休学・復学・退学や追試験、受講登録、教育実習登録など、各種の手続き書類の配布・受付
- ◎ その他

文学部事務室を通じて、立命館大学が提供するさまざまなプログラムやサービス、施設などを活用し、積極的・主体的な学修・学生生活をおくってください。

(2) 窓口時間

※授業のない期間については、時期によって窓口時間が異なりますので、よく確認してください。

【開講期間中の窓口時間】 9：00～11：30 および 12：30～18：30

2005年度より窓口時間帯が18：30までとなります。ただし、夜を中心に学修する学生、社会人学生で上記時間内に来室する事が難しい場合は、18：30～21：30に来室してください。

なお、17：00以降は学芸員課程についての対応はできませんので注意してください。

(3) 文学部事務室ホームページ

【立命館大学文学部事務室ホームページ】 URL <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/jimu/>

文学部事務室では、主な情報をホームページで提供していますので、ご覧になってください。

（提供情報の一例）定期試験時間割、休講情報、教職課程・学芸員課程・学部独自インターンシップなどの諸連絡、その他

また、文学部事務室では、メーリングリストによる各種案内や休講情報も、随時行っています。1回生オリエンテーションでの「書類交付ガイダンス」でみなさんに配布する「RAINBOW ID通知書」のIDを活用して、情報入手してください。